

香葉



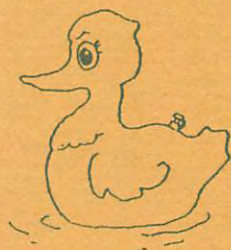
1997

NO. 26

目 次

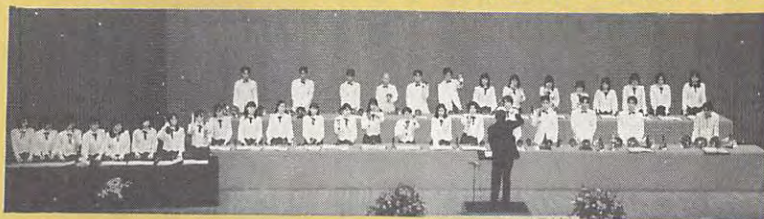
演奏会への御案内	1
会長あいさつ	古城 房子 2
学長あいさつ	吉 田 博 3
合同同窓会	4
女専のページ	澄 谷 亮 子 5
女専50周年の集い	8
国文科30周年の集い	岩 佐 壮四郎 9
母校ニュース	10
覚え書 -24-	上 市 二 郎 11
コーヨースポットライト	16
大塚野百合先生講演会要約	出 榮美子 18
留学生から	19
規約改正	20
最近の進路状況	中 村 英 夫 22
香葉室	23
クラス会報告	25
決算・予算	27
賛助金報告	28

表紙	関 頼 武
カット	葛 城 正 和



関東学院中・高等学校 ハンドベルクワイア 演奏会への御案内

今年は講演会に代わり演奏会をいたします。是非お出かけの上、お楽しみ下さい。



関東学院ハンドベルクワイア プロフィール

1973年、現指揮者太田和男先生により関東学院中学校高等学校聖歌隊にハンドベルクワイアが創立された。当時の日本ではハンドベルは全くといえるほど未知の楽器で以来ハンドベルの奏法に独自の研究を重ね、現在のダブルクワイアの演奏スタイルをあみだし活動を続け現在に至る。

毎年春に神奈川県立音楽堂で開催している定期演奏会は今年で20回を数え、日本ハンドベル連盟主催の全国大会にも連続出場し、教会・福祉施設・各種催しに奉仕出演を続け、T V、ラジオ放送にも数多く出演している。ハンドベルクリスマスCDが1993年にキングレコードより市販されている。

海外活動は1983年にフィンランド演奏旅行を行ない「ヨコハマのハンドベルの魔術師達」とマスコミで賞賛される。1984年の第1回ハンドベル世界大会（米国）より1996年の第7回世界大会（米国）に連続出場し、1987年には米国ハンドベル連盟主催第8回全米指導者講習会（ケンタッキー州ルイビル）に招かれ、その演奏にケンタッキー州より名誉市民の称号を受ける。昨年夏にはニューメキシコ州アルバカーキで開催された第17回全米指導者講習会に再び模範演奏チームとして閉会演奏会を担当する名誉ある招待を受け、更にニューヨークのリヴァーサイドチャーチの聖日礼拝にも1987年に次いで奉仕出演をしている。

演奏会

日時：1997年11月2日（日） 午後3時より

場所：短大チャペル

今までの講演・演奏者名です。（敬称略）

1985 永井 路子	1991 吉屋 敬
1986 鳥飼玖美子	1992 円 より子
1987 田中喜美子	1993 呉 善花
1988 関東学院中・高等学校 ハンドベル・クワイア	1994 大庭みな子
1989 宮崎 安子	1995 佐伯 輝子
1990 吉武 輝子	1996 大塚野百合

★香葉会の部屋★ご案内

卒業生と在校生、教職員の交流の場として、又卒業生の部屋として3号館106号室にて、コーヒーとお菓子のサービスをいたします。お友達同志・ご家族お誘い合わせの上お立ち寄り下さい。

※ 11月2日・3日 両日とも開室いたしております。

※ クリスマス小物等の販売もいたします。

香葉会からのご挨拶

会長 古城 房子



年の故か一年の過ぎるのが本当に早く感じられます。昨年短大の前身、女子専門学校の創立五十周年の記念誌をお届けしました。沢山の卒業生の方からご寄稿を戴き国内、海外での所を得てのご活躍ぶりを知り、本当に頼もしく、

るご主人の深いご理解と、ご支援あってこそ...と思い、時代の先端をいかれた理想のご夫婦でいらしたと思います。今春は小玉先生の他に英文科の宮川先生、国文科の岡松先生、幼児教育科の丸山先生、経営情報科の板垣先生が定年を迎えられ井上特約教授も七十才になられて退職されました。短大の成長期に多大の貢献のあった優秀な先生方の退職は大きな損失ですが、永年のお働きに心から感謝申し上げ、これからも特約教授として、短大の発展のために、ご経験を生かしたご援助を願いつつ、香葉会へのご支援も合せてお願い申し上げます。

香葉会も二十七年目を迎えました。新聞誌上に事件のない日はなく、殺伐とした世紀末の様相に心痛む毎日ですが、会員相互の親睦と母校への支援を軸に、今年も海外よりの留学生への奨学金、地球的視野のボランティア活動をしている団体への寄附、会員への通信等、講演会、その他短大祭参加の行事など、地道な活動を、委員一同頑張っていくたいと思っております。どうぞ十一月二日を覚えて、学校に足を運んで下さい。香葉会事務局には色々な資料も揃っておりますので、ご活用下さい。卒業生のため会ですから、皆様のご利用、訪問をお待ちしております。

(短英1)

勇気も与えられました。関東学院の基礎となつていく精神がそれぞれの中が大きく変わり、学生の気質も変つたと思ひますが、同窓会としては、創立当時の、自立した女性を育てる...という精神を学院と共に守り育てていきたいと願っています。短大としては初の女性学長になられた小玉敏子先生が任期四年で定年のため退任され、戦後生れの新しい学長、吉田博先生に引継がれました。男女均等法の今の時代は、職場での働きも、家庭のあり方も、私共の時代とは随分違つてきておりますが、津田塾大卒業後アメリカに留学された小玉先生が短大に赴任されたのは戦後数年たったとはいへ、まだまだ貧しい時代で、ご苦労も多かったと思ひます。この一、二年の間に、当時活躍された先生方が次々と天に召され、当時はよくご存知の先生は小玉先生だけになってしまいました。香葉会に親身なご支援を戴き心から感謝申し上げます。先生のお働きは、青山学院大学教授であ



本学の近況

学長 吉田 博



この度、公選を受けて平成八年九月より四年間の任期で関東学院女子短期大学の学長に就任致しました。教育を實踐する職務とともに、生涯、一研究者であることを自認し、研究者は専門の分野に深く根をおろしてこそ存在価値があ

るということを信じ、二十有余年を過ごしてまいりました。しかしながら、この度、特定の大学人にのみ要求される管理・運営にも携わることとなり、私にとつては晴天の霹靂の感がありました。就任した以上は研究者のとるべき姿勢でもある是非々論をもってこの職務を展開してまいりたいと考えております。

私は昭和四十四年四月一日、本学家政科に食物栄養専攻（栄養士課程）が設置され、食品学関係の担当教員として採用されました。弱冠二十四歳でした。年齢差もあまりないうら若き学生たちを前に、学生たちに目を向けることも出来ず、これで給料を貰ってよいのかと日々自問しながら黒板に向かって授業をしていたことが今は懐かしく思い出されます。あれから二十有余年、今は娘とも思える学生たちの前で、学長という専門職のかたわら、専攻科食物栄養専攻と本科食物栄養専攻の授業（食品学特論、食品衛生学、食品加工学、バイオテクノロジー理論）を通して学生諸君との人間的対話を楽し

んでおります。

一昔前に新人類なる単語がマスコミを賑わし、最近のコギャルと称する女子中高校生たちがマスコミ等で元気に活躍しております。彼女たちは短いスカートとダブダブの靴下（ルーズソックスというのだそうです）をユニホームの如く着用し、「超〜」の意味不明なる単語を連発し、ポケベル、タマゴッチ、プリクラなるものを大ヒットに導き、モノクロ写真を復活させた底知れぬパワーの持ち主たちです。彼女たちのファッション論議はさておき、何の悩みもない無邪気な顔のルーズソックスの集団を眺めていると、彼女たちの人生における一時期をことさらに取り立てて特別視することはないのではないかとも思えてまいります。コギャルがルーズソックスにかけた情熱も短大生になるとアムラーファッション（？）に移行し、その後その情熱は急速にパワーダウンし、就職戦線に参画する頃にはリクルートファッションがよく似合う凛々しい顔つきの女性へと変身してまいります。この二年間の学生諸君の急変振りを見ていると、彼女たちは自分自身の人生のタイムスケジュールを念頭に置き、器用に生活感を使い分けているのではないかとも思えてまいります。そして人間としての本質的な気質は、昔も今もあまり変わってはいないのではないかと私は思っております。

現代学生の生熊論の講釈はこの程度にして、二点ほど本学の現況報告を致します。人事では、本年三月末日をもって英文科の小玉敏子教授、宮川喜代江教授、国文科の岡松和夫教授、幼児教育科の丸山昭一教授、経営情報科の板垣毅教授、共通科目の井上恵美子教授が定年退職なされました。多くの大先輩を一時期に送り出すことは寂しいことですが、井上教授を除いた五名の先生には引き続き特約

教授として学生たちの教育にご尽力願うことになりました。新任人事として経営情報科に松下倫子専任講師が就任致しました。本学の教育体制のなかで手薄な部分であった情報関係の授業を担当願います。

教育面では学生諸君が社会のニーズに十分に 대응べく、高度情報化社会に対応する基本的資質として不可欠な情報活用能力の育成にも力を注いでまいりたいと考えております。とくに、高度情報化社会に対応する基本的資質として不可欠な情報活用能力の育成は急務であり、その情報教育も単なる技術習得のみにとどまらず、学科や専攻の教育理念を達成するための活用と考えております。

現在、本学では「関東学院女子短期大学キャンパス情報ネットワークシステム」の敷設を展開中で、この計画は平成九年度よりスタートし、十一年度に完成の予定です。平成九年九月までに、ATM—LANシステム、インターネット、インターネットカフェ、マルチメディア教室などを設置し、十月より学生諸君に使用して頂く予定です。正規の授業以外にも自由にパソコンに親しんでもらうためにインターネットカフェと称し、学生ホールに多数のパソコンを設置し、インターネットで情報を収拾したり、電子メールで国内外に情報を発信したり、様々な展開が出来るように計画しております。平成十年度はマルチメディア教材の編集、図書館システム、事務系LANシステムの構築を、平成十一年度は講義ファイル電子化システムの設置を計画しております。多額の投資を必要としますが、この情報システムを敷設することにより、全国の五百九十余校の短期大学のなかでも関東学院女子短期大学は情報教育においても最先端を走りえる大学になりえるものと確信しております。

本学の学生諸君は内面的にも素晴らしい資質と能力を有しております。それらを引き出し、磨き、輝かせること、これが本学教職員の仕事でもあり、生きがいでもあります。今後もキリスト教の精神を教育の根幹とし、国際化、情報化、高齢化などをキーワードとする現代社会からのニーズをも柔軟に受けとめ、社会に奉仕出来る人間の育成を目標に、教職員一同、邁進する所存であります。今後とも本学の行く末をお見守り下さるようお願い申し上げます。

合同同窓会報告

平成九年六月二十三日(日)相生本店において、内藤理事長・平塚校長(三春台中・高)・永野校長(六浦中・高)・遠藤理事(合同から推薦)を迎えて、代議員会が開催されました。今年度より、聖書・祈禱が設けられ、香葉会の相吉副会長が担当されました。

平成八年度事業報告・決算報告・監査報告があり、平成九年度事業計画・予算案の審議・旅費規定の審議・中間報告として事業運営準備金の使途についての報告がありました。

今後の課題としての、事業運営準備金の使途は各部会より一名ずつの代表が出て小委員会を作り、検討を重ねていきます。

合同同窓会とは、燦葉会(大学)・香葉会(短大)・橄欖会(三春台中・高)・六葉会(六浦中・高)と四部会で成り立っている会です。

女専のページ

ペルー寸見―奇蹟の生還

澄谷 亮子

昨秋K旅行社のツアーに参加して南米ペルーを旅しました。帰国後しばらくして、あの日本大使公邸人質事件がおこり、時間はかかりましたが少ない犠牲で解決し、ほっとしました。

ペルーの面積は日本の約三倍、人口は二千三百万人(一九九四年)程です。民族、歴史、言語、宗教、産業、気候風土等述べますと、あまりに冗長になりますので端折り、ちょっと珍しい体験をしましたので、二、三、心に残った事を記してみようと思います。

成田からロサンゼルスまで約九時間、そこで少憩、ロサンゼルスからリマまで又約九時間、少々疲れました。

アルベルト・フジモリ氏が大統領に就任以来、インフレの抑制、テロ組織センデロ・ミノソの掃討(私共が参りました時MRTAの名は聞きませんでした)、教育の普及と徐々

に社会改革に着手、治安は大分良くなってきたそうです。しかし日干しレンガやベニヤ板の掘立て小屋のスラムが延々と続くのを見ますと、貧富の差のひどさ、環境衛生の劣悪さ、失業率、就学率の程も察せられました。堀の外でもこうでは、堀の中はいかばかりかと、人質事件の時、思いました。出発前の説明会



で、「日本ではリュックは背中に背負いますが、ペルーでは安全のため前に背負って下さい。これペルーの常識、日本の非常識」と聞かされていま

したが、さすが前に背負っている人はいませんでした。

ツアーは二十四名、夫婦参加は私共と新婚さん一組のみ、殆ど二十代の独身女性で、参加の動機を尋ねた所、グラハム・ハンコックの、「神々の指紋」を読んでペルーに興味を持った人、TV番組「世界不思議発見」を見

て来たくなった人、空を飛ぶ鳥を見て「コンドルが飛んでいる」と感激、フォルクローレの大好きな人。私共のようにツアー料金が安かったからという人が結構いて大笑いでした。(勿論皆さんインカ文明に興味を持たれたこと。)

フジモリ大統領が中古車の輸入を許可して以来、日本の中古車が数多く輸入され右ハンドルを左ハンドルに改造、たよしボディは塗装もせず以前のままです。「足立区〇〇保育園」というピンクの送迎バスや××自動車学校などという車を見た時は妙になつかしさを感しました。「昔の名前で出ています」というところでしょうか。物価の割に賃金は安いので車を持っている人はフロントグラスに「TAXI」と書いた紙を貼ればそれで営業OKだそうで町にはその白タクが沢山走っていました。料金は乗る時に話合う。ちなみにガソリンは1リットル約五十円との事でした。

リマ空港に到着後添乗員から「ペルーではホテルと空港以外のトイレでは紙を流さないで下さい。つまってしまうのです。流すのは水だけです」と指示がありました。成程それ用の容器が傍らに置いてあります。でも悲しいかな長年の習慣で最初の一、二回は、あつ

という間に手から紙が離れてしまいました。主人が「大はムリかな」と申しますので「ホテルまで我慢よ」と申した次第です。

現地のガイドが乾燥ココアの葉（料理に使う月桂樹の葉に似ている）をくれましたので噛んでみました。私はただ不味いと思ったのですが主人は舌が少し痺れると申していました。これと石灰と一緒に噛むと力、体力に充実

感を感じ労働効率が上がるのだそうです。皆さんはフォルクローレの「コンドルは飛んで行く」の



哀愁をおびたケーナのメモデイをよく御存知でしょう。ガイドが申しますには「人骨で作ったケーナが一番悲しい音を出す所です」。

「皆さん驚

いて下さい。明日のモーニングコールは午前三時半です」と添乗員に云われ起床、真暗な中を出発した旅行五日目の事です。あの有名な

なナスカの地上絵観光のためリマからイカヘ飛行機で移動、そこで見物用の四人乗りのセスナ機に乗るのですが、セスナの数が少ないので順番待ちの時間が長く公平にするため、くじで搭乗順を決めました。私共は主人が引き、なんと一番を引き当て皆さんに羨ましがられました。ところがです。後部座席に私共、

前はパイロットと若いOLのSさんです。離陸後三十分程して、なんとなくエンジン音がおかしく管制官と交信しているスペイン語の会話が緊迫、パイロットはつとめて平静にしているのですが表情も声も暗いのです。管制官の声がヒステリックに聞こえ始め、これは只ならぬ事と感じました。日本航空の機長であった主人の方を見ると、両手を前でクロスして×印を出したので「あゝ、やっぱり駄目なんだ」と一瞬悲しくなり、日本においてきた九十才の母の事が頭をよぎりました。まあこれも運命、好きな旅行で死ぬのも結構。でもまだ地上絵を見てないのが残念と思ったりしました。パイロットが下をキョロキョロ見

廻しているので不着の希望？ 大怪我の希望もあるのかなと考えたりしました。パイロットはなんとか機体をあやつり、とうとうあの北・中・南米を縦貫しているパンアメリカン

ハイウェイに着陸に成功、地上に降り立って「あゝ助かった」とSさんと思わず手をとりあい「私達すごい体験をしたんですね」と奇蹟的な生還を喜びました。パニック状態にならず、あまり恐怖心がなかったのは、ひどい揺れや失速状態がなかったからでしょう。機体は損傷なく出火もありませんでした。パンアメリカンハイウェイは、たまにしか車が

通らないので、こういう事も可能なわけです。パイロットはすぐ機体を交通の邪魔にならぬ様ハイウェイの外に手で押し出しました。た

まに通る車は徐行して珍しい物を見るように私共を眺めて行きます。全員無事というのは嬉しいもので、早速機体をバックに記念撮影です。間もなくハイウェイパトロールがかけ

つけ簡単な質問、ところが彼ら全員英語は話せません。パイロットがイタリー語を話すので三十年前ローマ駐在の折覚えたお粗末なイタリー語が多少役に立ちました。小一時間も

待って、やっとエアコンドル社の迎いの車が来てナスカの空港へ、そこから別のセスナ機で、やっと地上絵を見てツアーの人達の待つイカの空港に戻りました。主人がジャンボの機長だったと話しますと「おーユニボ、ユニ

ボ（スペイン語ではジャンボはユニボと言

ます」と感心してくれましたが、ユンボなんてなんだかトンボみたいで迫力がありません。今度のパイロットは実にハンサムでした。若くて頼りなく、主人に「あなたを私の副操縦士にする」と



か言って私とSさんが後部座席へ、主人が前へパイロットと並んで着席、「彼が交信している間、僕操縦桿を頼まれた。久しぶりだった」などと申していました。ナ

スカの地上絵はいまだに謎に包まれています。鳥、犬、幾何学模様等砂漠の表面に刻まれた図形は空から眺めない限りわからないでしょう。「いつ」、「誰が」、「どの様にして」、「何のために」と多くの人がその謎にとらわれ又感動しております。イカの空港でツアーの仲間と再会し「よいお土産話が出来ましたね」と皆さんに言われました。運が悪ければ「邦人三人ナスカで墜落死」と日本の新聞にのるところだったのですから。

さてこれでハッピーエンドという筈が又々

とんでもない事が起りました。ロサンゼルスから日本へと向かう機内で主人が四十一度三分という高熱を出し意識朦朧となり途方にくれました。一分でも早く東京に着きたいの

あいにくの台風で「成田空港閉鎖、千歳へ向かいます」とアナウンスがあった時は、がっかりしました。幸いしばらくして成田が再開され小一時間遅れて成田着陸、その頃は熱も三十九度台になっていました。用意して貰った車椅子に乗ったお蔭でしょうか、イミグレーション、検疫、税関すべてスイスイと通してくれ、タクシーで帰宅しました。嫁の呉れたミヤリサンで医者にもかゝらず治ってしまいました。いろいろありましたが旅行は楽しく、こりもせず又出かけようとしております。

(一九九七年五月十日 記)

(女専英一)

燦葉会・香葉会合同

県央の集い 御案内

香葉会の皆様、県央の集いへお集まり下さい。県央支部は、厚木市・大和市・相模原市・座間市・海老名市・綾瀬市・伊勢原市・秦野市・津久井郡・愛甲郡にお住まいの方、勤務をされている方の集いです。燦葉会(大学の同窓会)と香葉会の幹事の方々に毎年楽しい企画を立て、皆様がいっしょやるのを楽しみにしております。今年も第十七回目を迎えることとなりました。お友達と誘いあわせてお出かけ下さい。(他地域の方でもOKです。)

日時・平成九年十一月二十二日(土)

午後五時三〇分より

場所・厚木ロイヤルパークホテル

詳しくは香葉会まで御連絡下さい。同封いたしましたハガキにて出欠をお願いいたします。

香葉会・〇四五―七八七―七八五九

燦葉会・〇四六二―二八―八九六〇

県央支部長 高田喜八

女専五十周年の集い

昨年六月一日女子教育五十年の記念会が、母校で盛大に行われましたが、その年の十月一日には女専卒業生有志五十四名が集まって、青春時代の思い出を語り、集い合えた喜びを共にしました。又すでに天国に移られた方々を偲ぶ一ときもあって、半世紀の重さを痛感致しました。女専卒業生の集いは、三十年は三春台で、四十年を六浦で等ありましたが、全クラス揃ったのは初めてでした。六十年の時は果してこのような会がもてるかしら、それまで元気でがんばりましょうと、懐かしいカレッジ・ソングを歌って別れました。

当日の会場を御提供下さった飯吉玲子さんをはじめ、その他御協力下さった澄谷亮子さん、平尾富子さん、斉藤道子さん、中村慶子さん、大金津義さん、安藤洋子さん、香葉会事務局の皆さんに感謝しています。

香葉編集部からお声がありましたので、記念の写真をお目にかけます。(写真人数五十三名、一名は後から御出席)

世話人代表 安沢 みね

佐藤 久子(記)



関東学院女専50年のつどい 平成8年10月1日 於：馬車道相生本店

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 河野 朝子 | 小林 ケイ | 藤城 栄子 |
| 森岡 茂代 | 北川 光子 | 岩田 郁子 |
| 前川 貞子 | 西本 素子 | 岩田 郁子 |
| 安藤 洋子 | 太田久美子 | 関口 清子 |
| 宮崎 慶子 | 篠本 和子 | 飯吉 玲子 |
| 薩埵 典子 | 篠本 和子 | 堀川 晴子 |
| 坂元 英子 | 澄谷 亮子 | 中村 慶子 |
| 高取 知子 | 中嶋貴美子 | 水越 みつ |
| 平山 文子 | 篠原 愛子 | 大金 津義 |
| 徐 多恵子 | 安沢 みね | 佐藤 久子 |
| 山本 裕子 | 松本 久子 | 大名豊代子 |
| 横山 凉子 | 細野サト子 | 齊藤 富代 |
| 朝広美智子 | 杉崎日出子 | 和野 照子 |
| 吉田 弘子 | 前納 順子 | 大野 紮子 |
| 吉岡八重子 | 青木千恵子 | 吉田 澄子 |
| 芹沢 雪子 | 平尾 富子 | |
| 加藤美和子 | 井田 玲子 | |
| 後藤波満子 | 横山はる代 | |
| 石黒 和子 | | |
| 齊藤 道子 | | |
| 松田 芳子 | | |
| 飛奈千枝子 | | |

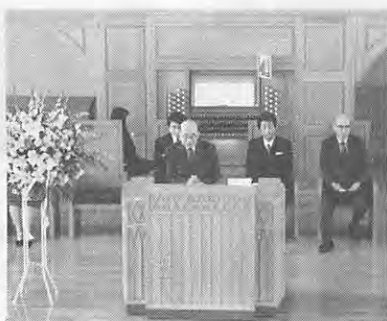
国文科創設三十周年 記念の集いについて

国文科科長 岩佐 壮四郎

国文科は、昭和四十一年に創設して、昨年（平成八年）で、創設三十年を迎えました。それを記念して、卒業生達による集い（「国文科創設三十周年記念の集い」）が、平成八年十月十六日に、短大のチャペルで開かれました。

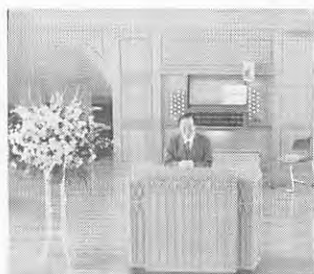
当日は午後一時から、チャペルで記念の式典が行われ、九月に就任した吉田博学長、小玉敏子前学長、林淳三元学長からそれぞれ心のもったその御祝いの言葉を頂きました。また下田哲元学長には祝詞をして頂きました。その後、短大職員の高橋友子さんによるバイオリンガンの演奏（バッハ作曲「トッカータとフーガ」他）を奏し、岡松和夫先生による記念講演「日本文学の伝統と創造」を聴きました。卒業生はすべて岡松先生の教え子でもあり、久しぶりに学生時代に戻って、先生の講義を受けることができ、感銘もひとしおのものがあつたようです。講演終了後、神藤敦子さん（第二期生、短大職員）の司会で教職員の皆さんの紹介・挨拶があつたのち、会場を学生食堂に移して、懇親会が開かれました。かつて教鞭をとつて頂いた金井清一、杉野要吉、日向一雅、川崎宏の各先生らのほか、創設以来「外国文学」（「比較文学」）を教えて頂いている小玉晃一先生や上市二郎元事務長なども駆けつけて頂き、あちこちで先生を囲んだり、友人どうしの輪ができました。創設以来の先生方のうち、藤川忠治先生が物故されたほか、山下登喜子先生、千葉義孝先生が

在職中に急逝され、また、兵藤正之助先生は前年に逝去されたため、出席頂くことができなかったのは誠に残念です。先生方と卒業生が交歓することができたのは嬉しい限りです。当日参集頂いた卒業生は三百名余、盛会だった様子は四千人に近い卒業生の一割近くが、遠くは高知、広島、金沢、盛岡等からも来て頂いたという事実が語っている通りです。これをひとつの区切りとし、私共教員もいっそ力をこめて国文科の充実に努めたいと気持ちを新しくした次第です。



なお、三十周年を記念して、国文科から出している雑誌「平瀉」は記念号を出しました。先生方から思い出を寄稿して頂いたほか、岡松先生の詳細な年譜、いつもより多くの人々の寄稿による「卒業生通信」や、専任の先生方の写真も載っています。御希望の方は国文科演習室佐藤助手までお申し出下さい。また、岡松先生の講演記録は、今年十二月発行予定の「平瀉」三十号に掲載されることになっています。

最後になってしまいましたが、記念の集いの開催にあたっては香葉会の格段の御理解と御援助を賜わり、古城房子会長はじめ多くの方が参加下さったほか、多額の祝金も賜りました。厚く御礼申し上げます。



母校ニユース

〈新任教職員紹介〉



松下倫子先生

経営情報科 専任講師

情報処理演習担当

中央大学大学院修了

湘北短期大学から本学

へ。

〈海外研修、英国へも！〉

今年度の海外研修は、カナダのプリティッシュ・コロンビア大学で第十二回を迎えますが、新たに英国オックスフォード大学マンスフィールド・カレッジでも三週間の海外研修が始まりました。この英国での海外研修は関東学院大学、女子短期大学、両高校から参加者を募り合同で行うものです。

カナダへは二十七人の学生と三人の引率者が八月三日に、第一回目の英国へは短大生五人の参加者が八月十七日にそれぞれ元気に出発しました。

覚え書 (二十四)

―女専・短大小史―

上市 二郎

平成八年(一九九六年)は末広がりの年で色々良いことが続くように願う、と前号で記しましたが、予定された如く、昭和二十一年(一九四六年)に発足した関東学院での女子の高等教育が丁度五十年を迎えました。そこで、認可された女子専門学校の第一回入学式が行われた六月一日を記念して、平成八年六月一日(土)盛大な式典と祝宴が催されました。その詳細が前号創立五十周年記念号に掲載されていますが、幸いに出席することができて大変嬉しく思っています。また、古い卒業生の方々の出席も多く懐かしく語らいのひとときを持つことが出来まして感謝しています。

そして、六月二十九日(土)には林淳三先生の叙勲に対し、横浜プリンスホテルに於て盛大な祝賀会が催されました。詳細は前二十五号に掲載しておりますが、先生には益々ご壮健で現在も学校法人彰栄学園の園長・校長として活躍中です。

また、十月十九日(土)に国文科創立三十周年記念の集いが開催され、お招きに与かり、出席いたしました。従来学校へ向う場合、JR横須賀線を利用して君津発逗子行で参ります。ところがあの日は金谷港に車を置いて東京湾フェリーにて久里浜へ向かいました。その折、途中で急に霧が発生して、霧の中を突いて船が進むのです。本当に濃い霧で実に印象的でした。京急電車利用で学校へ、記念の集いに出席しますと、国文科設立当時の古い先生方のお顔に出会い、二十何年振りかの先生もおおり、また古い卒業生の方々が周囲から微

笑を浮かべられ、急に霧の中のタイムトンネルにでも戻って仕舞った如く、いつか、余り広くない神学部礼拝堂(現在の大学経済学館の位置にあった建物)入口に小さな立看板を立て、集りを持った時代と錯覚してしまいました。懐かしいと同時に大変合せを覚ええました。二期生の神藤敬子氏(入試広報課課長補佐)が進行係で、挨拶をさせられましたが、今浦島の感があつて大変恥かしい思いでした。参加者の中には覚え書のいつ頃になると私達国文科の様子が載るのですか?と問い詰められました。記事内では多分二二位先になることの説明をしましたが、責任が重大だとつくづく感じました。ところで、平成九年(一九九七年)度に入りましたが、古い先生方を含め五人と職員一人が学院の定年を迎えることになりました。世代交代で致し方ないのですが、一抹の寂しさが感じられました。さて、前号では昭和三十六年三月、各科の卒業式の様子を記述した所迄で終わっていました。

いよいよ四月、三十六年度が始まりました。四月一日付をもって兵藤正之助教授が学院長辞令で教務主任に任命されました。その頃、英文科のクラス担任者も発表されて、第一学年Aクラスは安藤寿々代教授、Bクラスは兵藤教授、第二学年は持ち上りで小玉敏子講師と大河原泰之助教授となりました。

この年の大学祭は五月二十六日(金)から二十八日(日)にかけて行うことになりました。その準備の為に二十五日(木)と終了後の後片付け整備の為に二十九日(月)は休業とします、と発表され、英文科第二部は月曜日から授業を行うことになりました。それに先駆けて特別宗教講演会が五月二十四日(水)午前十時五十分から神学部礼拝堂で開かれまして、講師は神学部教授の山本和先生でした。大変難しいお話だったので印象に残っています。

天城山荘の受入れ予定の関係もあって、一月末には今年度のリトリートの計画がされていきました。それによれば五月八日(月)から十二日(金)にかけて実施し、英文科と家政科は別々に行う。従って五月八日(月)から十日(水)迄は英文科、この十日に入れ替わり後半は十日(水)から十二日(金)迄家政科となっていました。この行事が終わってからリトリートの反省が先生方により懇談会の形式で行われていました。それによると主題講演にはテキストを使用して事前に読んで置いてもらう様にしてはどうか?…また最終日の昼食はゆっくりして帰れる様にしてはどうか?…など色々話合いがされています。

次に北海道旅行については一月頃、今年の夏休みに実施する場合は例年より時期を遅らせて実施した方が良くと大河原泰之先生から注意がありました。と記録されています。これは現地での混雑を避ける意味があるのだろう。

六月中旬過ぎになり、いよいよ実施の具体的なことの詰めの段階で安藤先生が病気のため、小玉先生と齋木陽子先生及び筆者が行くことに決定しました。そして今回は特別にミスターエリオットと下田先生が参加することになりました。やがてスケジュール、細かい日程が発表され実施されることになりました。八月二十四日(木)から九月四日(月)迄でした。そこで思い出しました。ご承知のように北海道内到着の処宿泊施設は温泉が有り、皆満足しているのに一人エリオット先生だけが不満の様子、先生は、「温泉は何処も湯が熱い、熱過ぎるから」と。入浴すれば気分満点と云って皆に誘われていました。温根湯温泉の確か満世園に泊った時のこと、朝、起きて先生が小さな鏡を手にして顔の薄皮をむしっている様子なのでお尋ねすると、温泉で火傷したとのこと、エッ!あの微温湯?見ると

本当に赤い顔、皮膚がただれているみたい、本当に赤ちゃんのような肌なのかしら?でも大変お気の毒なことをしてしまったことを思い出しました。

この時期六月下旬ともなると、七月から九月にかけて全体の行事予定が発表されていきました。七月五日(水)授業終了(昼夜共)、七月七日(金)から九日(日)にかけて大学・短大の教職員研修会が伊豆の天城山荘で実施、七月十日(月)から二十六日(水)まで毎日午前九時から正午迄、英語夏期講習会、夜間、英文科第二部は七月十日(月)から二十七日(木)迄、毎日午後五時四十分から八時三十分迄英語夏期講習会が行われました。また、英文科第二部のリトリートは七月十五日(土)十六日(日)にかけて葉山の関東学院葉山小学校寮(現在の大学葉山セミナーハウスの場所)で行われていました。なお、教職科目の集中授業(教育史と教科教育法)が七月三十一日(月)から八月十二日(土)まで、毎日午後五時四十分から八時三十分迄行われ、その後九月四日(月)から九日(土)までは、体育の集中授業(普段出席時間の足りない者は必ず出席すること)が行われました。英文科第二部は本当に忙しかった。夏休み後の授業再開は昼夜共に九月十一日(月)となっていました。

前の号でも述べてあるが、家政科の特別教室がありました建物(旧海軍の施設で大浴場を大学が図書館に使用した建物)の取り壊しは順調に進み、地質調査も終って、八月二日(水)、待望の短期大学館の起工式が行われました。来年(昭和三十七年)の二月末には完成することになっていました。計画は鉄筋コンクリート造り三階建、一階は学生ホール(短大生の憩いの場所として最初に考えられました)二階には英文科の施設、語学演習室(L・L)と録音室に準備室及び研究室、三階は家政科の施設、広い調理実習室と試食室

及び調理研究室が設けられることになっていました。一階の学生ホール
の東側には木造平屋建で、巾の広い中廊下を設け南北に教室（講
義室）が二部屋ずつ、計四教室が出来ることになっていました。

（香葉第二十四号の十頁にも掲載済みです）何しろ短期大学の専用
の建物がたとえ若干借金しても自力で建設出来るのでありますから、
教職員の気持ちが一つになって、総べてのことに希望をもって当っ
ていたことを忘れることが出来ません。建設会社熊谷組から予定が
延びることがあっても三月十日迄には完成させる、と学長に対し約



当時の短大

束されたことが記録されてい
ました。十二月の段階で新校
舎の設備関係について、委員
会を設け何回も打合せを行っ
ていました。そして三月短期
大学館完成しだい、簡単な献
堂式を行い、四月七日（土）の
入学式後に短大館の披露を行っ
て学院内関係者にも見学して
もらう計画が検討されていま
した。当時としては本当に素
晴らしい建物だった印象が残っ
ています。短大館については少し先の行事迄進んで記述してしま
いました。これから随時建物に関して記録して行くことでありますが、
いつも我々の立場を考えて同じ気持ちで相談に乗ってくれたのが法
人本部の施設課長江崎昭次氏（故人）だった。「今回の鉄筋三階建
の建設は良しとしても、木造平屋四教室分は、次の増築工事で取り
壊すことが判っていたので、古い海軍の施設をそのまま利用すれば

良かったのに、無駄な支出をして造ったものだ」、とローマの会議
から戻られた白山源三郎大学長から大変なお叱りを受けたそうです。
江崎課長はあの古い建物に新しい鉄筋校舎を着けられるものではな
い、みっともなく、と非常に困惑していました。そして江崎課長
が「源さん（吾々卒業生からみる先生への愛称）が、ローマへ出張
していなかったら、みっともない建物が出来上がっていましたよ」
と筆者に笑いながら云われたのを思い出しました。

記述を戻して、昭和三十六年九月、この頃ともなるとぼつぼつ学
生数も増えてきました。そのため、将来のことを考え何か新しく学
科を増設したらどうか、丁度この時期、学科増設、定員増加、教員
組織が、従来は文部省の認可事項であったものが、今後は届け出事
項に緩和されたので、短大の学科増等の懇談会を設けて研究するこ
ととなりました。この頃、公衆衛生学及び細菌学担当の山下多恵子
先生が名義上の専任講師として就任しました。

秋の諸行事が次のように発表されてきました。その一は、香葉会
になる以前の同窓会、燦葉会短大支部の総会が、十月十五日（日）午
後二時から大学四号館で開かれていました。その二は、十月二十三
日（月）午後五時から九時迄、短大学生会主催のダンスパーティーが、
ホテルニューグランドに於て開催されていました。その三は、この
年のシェイクスピア英語劇の夕べが十一月三十日（木）県立音楽堂で
開催され演し物は「お気に召すまま」でありました。大学、短大共
催のシェイクスピア英語劇は成功裏に終了し大好評であったことが
記録されていました。

いよいよこの年も終りに近づき恒例のスキー実習の計画が発表に
なっています。今回も大学と一緒にやることになって、第一次は昭
和三十七年一月五日（金）から十日（水）まで、蔵王温泉土田屋旅館、

第二次は二月二十五日(日)から三月三日(土)まで、第三次は三月二日(金)から三月七日(水)となっており、第二次と第三次は会場が変り志賀高原発晴温泉薬師の湯スキー場となっていました。後日の記録で短大生の参加は第一次が十四名、第二次は九名、第三次は四十名と記されていました。参加された会員の方々は懐かしい思い出となっていることでしょう。

一月二十七日(土)は学院創立第四十三年の記念日でありました。この年は六浦が当番に当り、その準備を進め記念式典とレセプションは六浦校地で行われました。年に一回学院の教職員が顔を合せる良い機会でもありました。例年行われている創立記念講演会、大学では一月二十日(土)午後一時三十分から横浜駅西口の高島屋六階ホールに於て開催されていました。短大では一月二十四日(水)午後三時から神学部礼拝堂に於て「『ガリヴァー旅行記』について」と題して鱒木陽子先生が記念講演を行いました。

ルツ寮(女子寮)については学外に第二ルツ寮を設けたこと、既に香葉第二十四号で記述してありますが、この第二寮も昭和三十八年三月末迄の約束で借用していました。その先は未だ何の手当もなく、そのため期限が迫り急速、以前に松垣先生が生活していました教職員住宅を、第一ルツ寮隣に移設するよう建物は壊さず土台にコロをかまして約三百メートル位移動し、取り敢えず寮生の収容を可能にしました。機会ある毎に女子専用の体育館と女子の寄宿舎が是非必要であるということを学長がミッション本部にお願いしてました。やがて、理事会で次の様な決定があったことを学長から報告を受けました。「近くバプテストニューヨーク本部に女子寮の設計図を送り建築に援助してもらおう申請書を提出する」とのことでありました。いよいよ具体的に運びそうな気がしていました。そう

して翌年の四月に米国婦人ミッションから女子の寄宿舎建設の為に二万ドル(当時は七百貳拾万円)の指定寄付がありました。これに依ってハンソン山東側に女子寮が建設されていくのです。(短大三十年記念誌の百三十頁参照)この通称ハンソン山は女子寮の裏に存在していました。現在の三号館(幼児教育館)が建設される折、この山は削り取られて平地になりました。女子寮の古い写真には、その面影が残っています。然しこの場所に決定するまでの先生方の苦勞は並み大抵のものではなかったことを思い出しています。

いよいよ学年末の諸行事が発表になり忙しい時期を迎えました。例年の如く卒業式当日の役割分担が次の様に発表されました。司式は兵藤正之助先生、卒業証書係は安藤寿々代先生と松本久子書記、会場係は安藤先生と鳥越ノリ先生、卒業生氏名呼び上げは筆者、接待係は井口安喜子先生、受付案内は大河原泰之先生、鳥越先生、答辞の指導は兵藤先生となりました。

英文科第二部では卒業礼拝が二月二十三日(金)午後七時から神学部の礼拝堂に於て、佐々木敏郎先生により行われていました。翌二十四日(土)二十五日(日)は湯河原の清光園に於て第二部のリトリートが行われていました。

昼間部の卒業礼拝は第一候補の説教者として植村環女史を考え柴教授が交渉に当たっていましたが、他教会との関係もあり都合つかず、山室民子先生に依頼することになり三月十二日(月)午前十時から礼拝を行いました。そして卒業式は三月十六日(金)午後十時から行われました。卒業式終了後のレセプションは父母も加わり、早速短大館学生ホールが使用されることになり新しい明るい雰囲気の中で慶びの語り合いが続いていたのを思い出しました。

昭和三十七年四月新しい年度が滑り出しました。この四月一日付

をもって辯木陽子先生が専任講師に就任しました。入学式が四月七日(土)に実施され、式終了後、短大館のオープンハウス(披露を兼ねてのお茶会)が行われました。入学式については兵藤先生が司式、聖書祈禱は時田信夫牧師、受付には鳥越先生と事務局、オープンハウス、レセプション係として井口先生が担当することになって、夫々その任に当たっていました。

統いて新学期各学年の予定が発表されました。新入生の登校は四月九日(月)で午前九時から学生手帳及び履修要項を配布し、九時三十分から英文、家政両科とも学力テスト(クラス分の関係もあって実施されました)翌四月十日(火)午前九時三十分から各科別に履修指導や性格調査など、午後クラス分け発表と午後一時から各科別に生活指導や学科登録指導、四月十一日(水)午前九時半から生活指導や全般の質問事項をもってオリエンテーションが終っていました。

在校生の登校は四月九日(月)十日(火)を使って、午前十時から午後三時迄にかけて、時間割発表を始めとし学年暦、履修要項交付し、生活指導、履修指導、全般の質問等のオリエンテーションが終了しました。英文科第二部の在校生は四月九日(月)十日(火)、新入生は四月十六日(月)から十八日(水)にかけて履修指導、生活指導、登録指導、性格テスト等のオリエンテーションが行われていました。

この年の四月からは第一ルツ寮(学内)三十名、第二ルツ寮(学外六浦橋近く)二十一名、合計五十一名が入寮者として決定しました。と寮アドヴァイザーの松垣好子先生から報告されていました。

四月十八日(水)午後一時から学友会主催の新入生歓迎会が催され、学友会各部(文連・体連等)の紹介がありました。その日の夜、英文科第二部の自治会による新入生の歓迎会が午後七時から新しい短大ホールで行われていました。

本年度(三十七年度)のリトリートの準備委員が上げられ、宗教

委員を中心に教務主任も加わり検討がされ、本年はテキストを使用することとなりました。テキストは『神と人間』で著者の高木幹太氏を招く予定で交渉が進められました。講師の承諾が得られ、今回のリトリートは二回共高木幹太氏が出席されることが了承されて、次の様に実施されました。第一次は五月十九日(土)から二十一日(月)まで、英文科家政科一年次生、指導に当たる教職員(敬称略)相川高秋学長、柴三九男、兵藤正之助、安藤寿々代、小玉敏子、鳥越ノリ、下田哲、辯木陽子、エリオット、湊井東。第二次は、六月九日(土)から十一日(月)まで、英文科家政科二年次生、指導に当たる教職員は(敬称略)相川学長、柴、兵藤、安藤、大河原泰之、井口安喜子、エリオット、大島良雄、佐々木敏郎、小玉、後藤典子、松本久子、筆者となっており、人数の関係と伊豆天城山荘の都合でこのように決定しました。後日の報告で五月と六月のリトリートは大成功であったと記録されていました。

五月にはいつの間もなく、七日(月)の早朝第二ルツ寮(学外六浦橋近く)の寮母、上田ヒデ氏が突然急逝されました。医務室の谷内先生や松垣先生と共に駆け付けました。今、記述を進めている間もその時の状況が走馬燈の様に浮んで消え、繰り返し脳裏に写し出されています。死因は脳溢血であったと谷内先生の言。五月九日(水)正午から告別式が同寮にて行われましたが、余りにも突然のため信じられないと、寮生始め関係者が生前の生活を忍び涙して語り合っていました。

五月十二日(土)午後二時から葉山寮に於て、新任の先生のためのオリエンテーションが計画され、専任の講師の方々を招待して行っていました。「学校の歴史」「キリスト教主義学校について」と二題の講話があつて、夕食を共にしながら懇親のひとつときを待っていました。

(つづく)

コーヨースポットライト

定時社員の

オーストラリア短期出張

小林 守信

現地での会議二日間、合計五時間の栄養食品原料輸入契約の通訳の仕事で出かけた。時差は日本と一時間しかないが、南半球は今月（六月）が落ち葉の季節で、音楽シーズンの始まりでした。貝の形の屋根で有名なシドニー



左側 筆者

オペラハウスで、ポストモダンの舞台装置のオペラ「蝶々夫人」を現地の音楽ファンに混して鑑賞した。第一幕の後に、正装した現地

の人に混じって、幕間に飲み物店で求めた白ワインを飲み、三階の大きな窓からシドニー港の夜景を眺めるのは、至福の一時であった。久しぶりの仕事なので、今回の情報収集技

術の世界は、約五年前の文書FAXのみの時代の体験とは異なり、或る程度「インターネット/Emailの活用」に依存していることを、身をもって体験した。自分でも「ノートパソコン」を持って出かけた。会議相手側は、通訳がいないので、相手側の通訳もした。従って、情報機器のみでなく、それより自分の体力の鍛練が必要と痛感させられるくらい密度の濃い仕事でした。第二日目には、私の声がかすれる様な気がするくらいであった。

この度はやはり、栄養、食品、生化学関係と英和の辞典を携え、関連資料を全部日・英両語に訳して、パソコンにも記憶させる様な準備を重ねてから出発した。

実際の会議は、東南アジア系の出席者が殆どで、割に聞き易い英語の会議で終始した。華人系課長が三人ほどでてきたので、あまり議事進行に神経は使わないですんだ。一時議論が緊張状態におちいったこともあったが、儒教的な手法で、相手側が表面的には折れてきたりして、こちらの面子を立ててくれたり助かった。

その他に、会議の目的は、国際技術契約案の交渉であるから、私としても一通りの英語による民主的な討論の手法もおさらいしてか

らかった。日本側は、最近赴任した現地法人日本人営業部長が自分の取り扱い商品の勉強がてらに、詳しく議事録を取ってくれたので助かった。

二日目の昼飯時に、食事の手配がしてないのでどうなるかと思ったら、家庭の冷蔵庫に保存するときに利用するようなプラスチック容器に入った中国料理の持ち帰り食品の五目焼きめし、甘辛の小エビ料理などが、急いで調達持ち込まれた。はしくも、現地の食文化の一端をかいま見た思いでした。

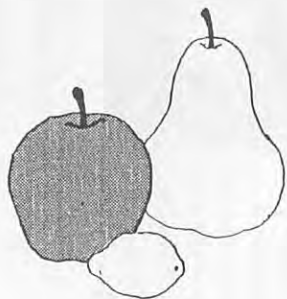
会議席上の飲み物も、別に輸入天然飲料水が準備されるわけでなく、当然のことように紅茶ティーバッグやカプチーノを、全員で飲んだりした。

二日目の会議に出かける前に日航ホテルの近所でシドニーのビル街で女性秘書達に混じって、紙コップのカプチーノを注文したら、大変おいしいのが日本円で八十円ぐらいで新鮮なのがでてきた。会議終了後、その晩に帰国の途についた。出発までの最後の一時間ぐらいがただ一つの買い物時間。いくらかでも買物を済ませるのは大変だった。しかし、世話をしてくださった会社は、日本の有数企業のせい、短期旅行者が予想できないくらい

有利なおパールの買い物ができたのは驚いた。

この柔らかい十月の誕生石の宝石についてその種類の多さ、色彩、輝きまた石の特質についてもいかに私が知らないかを覚えさせられた。薄くスライスしたおパールの上に水晶を重ねた opal もどきがあり、これは現地では正規品ではなかった。外国ではこの石は手入れの仕方、例えば貸金庫で保管するときなどの要領を、宝石店はまず教えるものらしい。

私の友人は水仕事で四十年も指輪をはめていると、輝きが落ちるので、再研磨に出した由である。とにかく大変興味のある仕事ぐらゐの旅であった。(英II)



FOR TO ME TO LIVE IS CHRIST

竹内恵美子



今年に入って間もなく、「卒業四十周年クラス、リユニオン」の知らせをアメリカにある母校

アグネス・スコットカレッジより受け取りました。一九五七年の初夏に学窓を巣立ってから今年で丁度丸四十年！思えば関東学院三春台短大英文科II部一期生として、卒業間近の一九五三年一月に横浜港を船出してから四十四年の歳月が過ぎたのです。

荒れ狂う冬の北太平洋をデンマーク船ジエペセン マースク号で横断。ウァンクワアール經由でサンフランシスコに入港したのが一月二十七日の午前十時前後でした。燦々と輝く太陽の光を浴びて淡いブルーの宝石より美しい海。木々の緑を背景に白い家々が印象的でした。子供の頃からずっと憧れていたアメリカが腕を拡げて暖かく私を迎えてくれる感じでした。ゴールデンゲイトブリッジの下を船が通る時、神様に一言感謝の祈りを捧げました。

関東の英文科に通っていた時、クラスメイトは皆真剣に勉強に取りこんでいました。昼間は働き夜は一心に講義に耳傾ける私達でした。本牧の小港の(今のマイカルの少し手前)丘の上の米軍チャペルセンターのチャブレンの秘書をして私は働いていました。一九五二年のある日、チャブレンネイラーに質問した英文の一節がきっかけとなり、アトランタの郊外にあるアグネス・スコットカレッジからスカラシップを受けることになりました。日本からの円の持ち出しは一切禁止であったため渡航費その他総ては米軍々人や家族が献金し、衣服も婦人会の方からのプレゼントでした。チャブレンネイラーが横浜に着任していなかったら私の米留学はなかったでしょう。一年毎にスカラシップが再新され、四年間のカレッジライフを通してアメリカの最も輝いている時代に学生々活をする機会を与えられた事は彼の地における四年十ヶ月の間親として私を守り続けて下さったネイラー夫妻のお蔭だと思えます。

ビーチチャペル、関東学院、アグネス・スコット、横浜に帰ってからの海岸教会での生活、すべてを通して神様の限りない愛と深い御計画を覚え、たと感謝するのみです。(英II)

前年度講演会

講師 大塚野百合先生

—「幸福について」—



要約 出 榮美子

私が最初の教師として教壇に立ったのが関東学院女子専門学校でした。坂田祐先生夫人が恵泉女学園で私の英語の先生でした。早稲田大学文学部を出ましてから先生のお宅に伺っているうちに「大塚君、来なさい。」「はい」というわけで教師になりました。

私が礼拝のお説教を最初に頼まれて、ウイリアムクラークという北大の前身・札幌農学校に來たあの宣教師が「Boys Be ambitious.」と云ったんですよ。それをもじりまして「Girls Be ambitious.」と云ったんですね。そうしたら礼拝の話の後、相川先生が大変褒めてくださいました。「今日の礼拝は大変敬肅な雰囲気がありました」なんて。「皆さん、男の学生に負けちゃいけませんよ。一所懸命やりなさい」とそういう風にけしかけたんだと思います。

去年の十月に「賛美歌・聖書物語」というのを書きました。これがヒットいたしましたもう九千部出ております。私の専門は文学でございまして、特に、人間の本当の愛情とは何ぞや、本当の幸福とは何ぞやということ私のテーマとしています。

私は独身でして、妹と二人で住んでおります。大きな声でしゃべり、人前では明るい、幸福な人間と思われそうなんです。家にいる時は死んだみたいにゲソソッとしています。私はいつも「幸福って何なんだろうか」「幸福って何なんだろうか」と考えています。

賛美歌の歌詞に「疲れたる者よ 我にきたり、重荷をおろして

とく休めとまねける 御声に従いゆき、やすけき想いをうる 嬉しき」とあります。

この頃、日本の主婦達に凄く幸福願望があるんですね。結婚した時はときめいたけれども、この頃はときめかない。凄く不倫願望があるんです。

不倫願望は、心の中の空虚からです。数年前に「マティソン郡の橋」というベストセラーのブームがありましたね、あの人妻の宿命の恋も幻想です。良心のブレーキが、心の制御機能が働いていません。

この小説が、映画が世界的人気を得たのは、私たちが普通経験しない、運命的な眞の恋を二人が経験したんだと、読んでいる人が信じるからなんです。私は「ノーツ」と云いたい。全世界が浮かれちゃっている。これは幻想なんです。

山田太一の「岸辺のアルバム」や「さくらの歌」では醒めた目で男女の浮気を見詰めることができます。樹木希林が姉の役で、失恋した妹に「私の胸を貸してあげるから思いっきり泣きなさい。」と言っていますが、これはイエス・キリストを人類を救う実力のあの人と信じて、人間の無意識に心の奥に隠している悩みを、自分のために胸を貸して下さると思うことに通じます。

自分だけのために、神はキリストを通して愛して下さるという自信をもって信ずることで。

「私は愛されている」その救われた喜びで、本当の幸せを感じるんじゃないかと思えます。

聖オーガスティヌスという人の言葉なんですけれども、「神様はあなたも私一人しかこの世界に存在しないかのように私を愛してくれる。」こう言った。わたし、参っちゃいましたね。世界に誰もいないんですよ。私一人しかいないかのように。だから皆さん、家に帰ったら、その私とか、自分の名前を入れてみるわけです。私ならば、大塚野百合。日本を新しく作り直すエネルギーがあるとすればこれは「自分は愛されている」と思うことです。（女専英2）

留学生

皆さんへ

鄭 貞娥

お元氣ですか。今年三月に卒業した、鄭貞娥です。歳月というのは、早いもので、卒業してからもう、一ヵ月半が過ぎましたね。卒業式が終わり、謝恩会も終わってからの、その週の上ようび、私は国へ帰りました。そして一ヵ月がたつてから、日本に遊びに来ています。

二〜三日前、友達からの手紙と卒業式の写真が送られてきたので、今日はその返事を書いて、郵便局に行つて来ました。帰り道に美容室の前を通る際、まだはかまのパンフレットが貼つてあるのが目に入りました。つい、この間の卒業式の事が思い出されました。

それは私は二年生になつてから間もない時でした。桜の吹雪が終わりかけている時に教室の窓から見える最後の桜の吹雪まで、「あ〜これで、この一年で私の長かった学生時代が終わるのだろう。と、もう二度とこの瞬間はもどつてこないだろうと思つたことがありました。ちょうどその時間は書道の授業だつ

たので、センチな気分になつても良かったのだした。

日本での生活は大変でしたけれども、皆さんの助けて無事に、日本での学生生活を終える事が出来ました。皆さんが暖かい目で、見守つてくれて、ここまでこられたと思います。特に、香葉会からの奨学金は、本当に助かりました。この手紙を借りて、感謝の気持ちを送ります。先生方にも、ありがとうございました。また便りを出します。

さようなら。

平成九年四月三十日、国文科卒業生

* * * * *

香葉会における留学生に対する奨学金は昨年で五年目を迎えました。五年間に奨学金を差上げた方々は、全部で十六名になります。

本来ならば卒業された皆様と現役の留学生と懇談会等を開催できれば良いのですが、時間の制約とか、帰国していたりして、今回は現役の留学生数人からのアンケートを取り上げたいと思ひ御協力をいただきました。

一、出身国は……？

韓国・中国（卒業生もほぼ同じ）

二、関東学院女子短期大学を選んだのは……？

○日本語学校の先生の紹介

○大学案内等…留学生の受け入れがある。

三、専門科目を選んだのは……？

○将来の進路に関係があり選択した。

四、短大の印象は……？

○環境が良い（静かできれいである）

○明るく、親切である。

五、アルバイトについて……？

○学生として勉学に負担にならない程度アルバイト。

○していない。

六、短大を卒業してからの進路は……？

○母国に帰国して就職

○日本の四年制大学編入

以上のような結果が得られました。もっと色々な質問ができれば良かったのですが、簡単になつてしまいました。次回には、ゆっくりと時間をとつて母国のこと等も聞いてみたいと思ひます。



規約改正

香葉会会則が新しい部分を加え、昨年の秋、総会において皆様からの承認を受け改正実施することになりました。新しい会則を掲載いたします。香葉会の会員として皆様の御協力をお願いします。

香葉会会則

(総則)

第1条 本会は香葉会と称し、本部を関東学院女子短期大学内に置く。必要に応じ、支部を設けることができる。

(目的)

第2条 本会は関東学院建学の精神に則り、会員相互の親睦をはかり母校の発展向上に積極的に協力し、もって文化発展に貢献することを目的にする。

(事業)

第3条 本会は第二条の目的を達するために次の事業を行う。

会報の発行

会員名簿の発行

その他必要な諸事業

(会員)

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

正会員

女子専門学校、女子高等学校及び別科、

短期大学、同第二部卒業生、女子短期大

(役員)

第5条 本会には次の役員をおく。

名譽会長 一名 顧問 若干名

参 与 若干名

会 長 一名 副会長 二名

幹 事 長 一名 副幹事長 一名

幹 事 若干名 年度委員 各年度一名以上

監 事 一〜二名

第6条 役員は次の方法によってこれを定める。

名譽会長は関東学院女子短期大学長をもって推薦する。

顧問は総会において委嘱する。

参与は必要に応じて正会員で本会に貢献のあった者で総会において委嘱する。

会長、副会長は正会員より選出する。

幹事長、副幹事長は幹事会において幹事より選出する。

幹事は年度委員および特別会員より選出する。

年度委員は会員より選出する。

監事は会員より選出する。

監事は会員より選出する。

学、同専攻科修了生、また前記各学校に一年以上在学し、会員の推薦を得て幹事会及び総会において承認された者。

特別会員 前項各学校の教職員であった者、並びに

現在教職員である者。

名譽会員 本会に特別な功労があった者で、幹事会

の議を経て総会において承認された者。

役員は任期は三年とする。ただし再任を妨げない。

役員に欠員を生じ、会員が必要と認めるときは、臨時に委嘱することができる。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。

第7条 役員は次の通りである。

顧問は会の諮問に応ずる。

参与は会の諮問に応ずる。

会長は会務を統轄し、本会を代表する。

副会長は常時会長を補佐し、会長事故ある時は会長の職務を代行する。

幹事長は本会全般の会務を処理する。

副幹事長は常時幹事長を補佐し、幹事長事故ある時は幹事長の職務を代行する。

幹事は会務を処理する。

年度委員は幹事を選出し幹事を補佐する。

監事は本会の会務及び会計を監査する。

(会議)

第8条 本会の会議は次の通りとする。

総会 毎年一回とし、会長がこれを招集する。

ただし必要に応じて、臨時にこれを開くことができる。

幹事会 必要に応じて、幹事長がこれを招集する。

以上の議決は出席者の過半数をもって行い。

(会費)

第9条 正会員は会費を納入し、その金額及び納入方法は別に定め

る。

第10条 会計年度は毎年四月より翌年三月三十一日までとする。

(その他)

第11条 会員は住所・氏名・職業等に関し、異動があった時はその都度本部に連絡をする。

第12条 本会則の改廃は総会において、出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

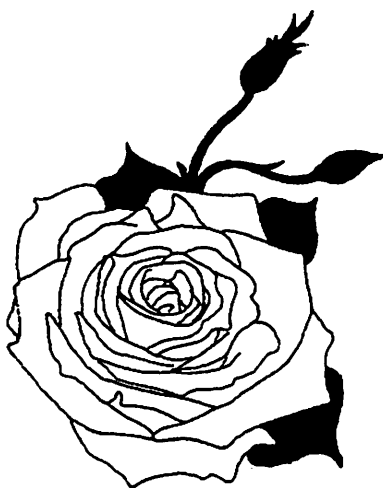
(付則)

本会則は、昭和四十五年六月二十八日より実施する。

本会則は、昭和五十三年六月二十五日より改正実施する。

本会則は、昭和五十九年六月二十四日より改正実施する。

本会則は、平成八年十一月三日より改正実施する。



最近の進路状況

就職課長 中村 英夫

就職課では毎年一年生の一月に希望進路の予備調査を、二年生の四月に本調査を実施しています。傾向はあまり変わりません。

さて、今年度の就職活動は「就職協定廃止」という激震の中でスタートしました。就職協定は一九五三年に始まり、廃止、復活を繰り返し、その間に「青田買い」という言葉も産まれました。一九八八年、新たにできた就職協定も実際にはあまり順守されませんでした。心理が、それでも昨年まで大筋で継続され、心理

1996年度卒業生進路状況 平成9年4月30日現在

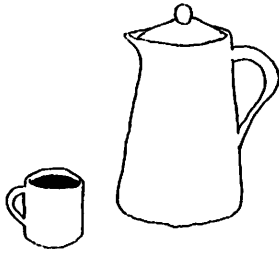
科・専攻	就職者	決定者(%)	進学者			
			大学	専攻科	学校種	留学
英文科	148	100	7	13	6	3
国文科	127	97	8		6	
家政専攻	65	98	1		6	
生活文化専攻	71	100	3	1		
食物栄養専攻	65	100		6	2	
幼児教育科	113	97	2		4	
経営情報科	98	100	7		1	1
本科生合計	687	99	28	20	25	4
専攻科	英語	12	100			
	食物栄養	8	100			

的にはブレイキの役割を果たし、極端な早期採用活動は姿を消していました。協定廃止にいたる事情はマスコミの報道通りですので触れませんが、いまのところは求人活動の早期化が目立っています。バブル期には一般企業への就職希望者のほぼ全員が秋口までに内定しましたが、崩壊後の企業は厳選主義をとり、特に事務職は、企業のリストラとも相俟って必要最小限の人数の確保だけをめざすようになりました。一方、短大生は一般に就職意識が専門学校生や女子大生（四年生）よりも低く、企業研究も遅れがちで、夏休み前には自己PRのできない人が沢山おられます。受験勉強に追われ高校を卒業して一年しか経っていないので仕方ないといえそうですね。夏休み前に人気のある企業は、銀行、家電メーカーや旅行会社、化粧品やアパレル業界など身近でかつ著名、そして勤務地がより都心に近いところの企業です。戦後の日本経済を支えた重厚長大企業には関心が低いのではなく、知らないというのが正直なところです。論より証拠。十八歳〜二十歳位のお嬢さんをお持ちの方は、新聞の株式欄に載っている企業名をあげて尋ねてみてください。

秋口になると学生の就職意識も高まり、大企業、著名な企業、都心指向といった外見上からの就職活動から、通勤の時間や仕事の内容などに関心が移りはじめ、この時期を狙って多くの企業が求人活動を行います。そして、一月になると予定外の退職者の補充募集があり、結構、著名な企業も募集を行います。

このように本学への求人は、年三回ピークがあり、内定率は七月末で二〇%、十月末で半分、そして卒業時にはほぼ全員内定です。なお、保育関係の求人、就職活動は秋口から本格化します。進学についての特別な指導は行っていませんが、送付いただいた入学案内を配架して閲覧に供しています。関東学院大学をはじめとして次表の通り五つの大学からは、編入学指定校としての指名をいただいております。

編入学指定校大学		大学・学部・学科名	本校対象学科
関東学院大・文学部	経済学部	英文、幼児	英文
	法学部	全学科	全学科
杏林大・保健学部	社会学部	家政科	家政科
	外国語学部	英文、家政、経営	英文、国文
産能大・経営情報学部	経営	経営	経営
	英語	英語	英語
中央大・商学部	経営	経営	経営
東京経済大・コミュニケーション学部	英語	英語	英語



香葉室

この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。今回も引き続き、昨年の講演会出欠通知から無断で転載させていただいておりますが、短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿などお送りいただければ幸いです。

卒業して十二年。ただ今子育てまっ最中でなかなか短大時代の友人にも会う事ができず年賀状には毎年「再会できる日を楽しみにしております」と書くばかりであります。金沢区周辺もずいぶん様変わりしたようで、来年こそはと毎年の香葉会からのおたよりを心待ちにしております。
(家34 浅井 雅代)

昨年久し振りに同期をさそって短大祭に足を運ばせていただきました。私達が学んだ頃とずいぶん様変わりしてしまいましたが、金沢八景から短大までの道のりがとてもなつかしく、皆で思い出にひたりました。とても良い学生時代を送らせていただいた事、改めて感謝の気持ちでいっぱいになり、今年も又出会の機会の持てる事をクラブの仲間(書道部)と計画中です。
(幼3 峰尾 育子)

十一月初めにはカナダ人の主人、おなかの赤ちゃんと共にカナダのヴァンクーバーへ引越すことになりました。卒業後は故郷の福井へ戻り学院を訪れる機会はありませんでした。今一度あの風景を見てみたかったと残念ではありません。
(家29 ポーデン美樹子)

関東学院女子短期大学を卒業し、三十年経ちました。時おり、新聞より目にする学院の後輩達の活躍を、一人楽しんでおります。今回の会報にて、兵藤先生、相川学長のご逝去に接し、慎んで、お悔み申し上げます。我が社でも、学院卒が二十名弱、大変元気に、頑張っております。事務局の皆様の業務に感謝致しております。ご活躍をお祈り申し上げます。
(家14 大谷 道代)

今月の誕生日を迎えると、五十才になります。英文科を卒業し、早三十年。本日に『光陰矢の如し』という感じですが。香葉二十五号を拜読している内、学生時代を振り返り、懐しさと共に、充実した日々だった事を思い出しました。今は母の看病と会社務めに明け暮れる毎日です。幹事の皆様、これからも頑張ってください。
(英16 飛田美江子)

主人の転勤で、岩手に来て二年半、家も建ててしまい、もう岩手に永住みたいです。先日バツタリ、短大の同じクラスのの方に会い、お互い名前は出なかつたのですが、今はおつきあいが、始まっています。岩手で会うなんて……びっくりです。
(幼10 水野 千夏)

昭和二十八年頃、私の勤めていた横浜訓盲院の附近に根岸競馬場があり、そこに米軍モータープール、横浜バプテスト教会の廻りにはカマボコ兵舎、伊勢佐木町の裏は米軍小型機の飛行場があったような気がします。余り記憶にはっきり残っていません。その後は随分変わったことでしょう。現在の横浜の写真を見ても、どこか見当が付きません。三春台の校舎まで市電で通学していた頃が懐しく目に浮かびます。現在前立腺の病気になり通院しています。それ以外はどこも悪くはありません。通常の勤務をしています。事務局のお働きを感謝致します。(英II 1 権田 嗣夫)

主人の赴任に伴いタイへ来て早や、一年九月がたちました。固くなった頭でタイ語の学校へ通いどうにかあいさつ程度はわかるようになりました。それでも外国語の壁は厚く四十近くになってからの勉強はやはり大変ですね。あと帰国まで一年ほど。その間にたっぶりタイの生活をエンジョイしたいと思っております。ちなみにタイ料理はとておいしくおすすめものばかりです。

(家27 武下 千文)

この度は五十周年記念誌におめでとうございます。そして林先生の叙勲受賞のニュースは新聞にて知っておりまして大変嬉しく思っております。母校のニュースとしまして他に偉大な恩師を失ってしまった事も忘れないと思えます。兵藤先生には専門教育科目(比較文化論)の方で私はお世話になったのですが、先生の熱意に満ちた授業は忘れられず、授業で購入した本は今でもふと振り返って読み返す時が有り、日本文化や日本人の心を考える上で終生、必ず役に立つものと思っておりますし、国際情勢が複雑となり様々な国の方とも接するにあたり、先生には大変感謝しております。毎年香葉を送って下さりありがとうございます。この五十周年を期に今後の母校の更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。(家36 森 慎子)

今年の六月に結婚致しました。チャペルの結婚式で、パイプオルガンから流れてくる音を聞いて、短大の礼拝堂を思い出し、なつかしく思いました。(経4 本川あずさ)

創立五十周年記念号の「香葉」ありがとうございました。もり沢山のニュース、興味深く拝

見いたしました。とりわけお世話になりました三人の先生の昇天なされた記事は悲しい思いで読みました。心からご冥福をお祈りいたします。五十年もの長い間学校のために卒業生のためにお骨折り下さり、立派に同窓会を維持して下さいました古城様はじめ皆様へ深く御礼申し上げます。(英1 高橋 静子)

今年から幼稚園と小学校に子供がお世話になっております。短大もずいぶんかわりまして、とてもびつくりしております。この間、短大のお教室をかりまして同窓会がありました。皆さん全然変わってないのでびっくりしました。山口先生もおかわりなく楽しいひとときを過ごさせていたぶきました。この場をお借りして御礼申し上げます。(家13 加倉井節子)

横須賀市藤取町に転居いたしました。最寄り駅は京急追浜駅で母校のある金沢八景駅の隣りです。特にこの地を希望した訳ではありませんが、やはり青春の思い出に惹かれたのでしようか。また香葉会誌に安藤先生のお姿を拝見し、たいへん懐しく思いました。

(幼9 小室 卓重)

クラス会報告

めだかの会

何か宇宙的な規模で、とてつもない策略をもって、何者かが時の流れを少しずつ早めていっているのではないか？そんな風に考えてしまっただけ、月日の流れが早く感じられます。昨年の「国文科三十周年の集い」の際に、同期会の約束がされました。その約束の日までの半年あまりも、本当に早いものでした。

前日はすごい雷雨にみまわれ、こんなお天気で明日は出かけられるだろうかと心配しました。が、当日は爽やかなお天気に恵まれました。山下先生の



お墓参りに向かう道すがら、（また先生が、皆に気がつかって下さった。）と思いました。先生のお通夜の時も、国文科葬の時も、一月の寒さの厳しい時であったのに、少しも寒くはなかったのです。参列する学生や卒業生達に、最後までやさしく気をつかって下さった様な気がしていました。そして、十年近く経った今も、

お墓参りをする私達に素晴らしいお天気と、楽しい時間をプレゼントして下さいましたので、

岡松先生を囲んでのお食事やおしゃべりは、学生時代とは違って楽しいものでした。出席者のはほとんどが、おばさん体型に変身して

ました。が、岡松先生と世間話をしたり、健康についての情報交換をしたり出来るのは、おばさんになったからこそなのかもしれない。お帰りのバスの中から、手を振って下さる先生が、今までよりずっと身近に感じられて嬉しい一日でした。

次の同期会をまた楽しみにしています。きっと更に、時の流れは早くなっているかもしれない。 杉山和佳江（国7）

英華会

平成九年四月二十日(日)十二時三十分



横浜そごう十階ホテルオークラ・サファイヤにおいて小玉敏子先生を囲み同級生十二名を出席をいただき、久々の集まりをもちました。先生を囲んでの楽しい一時でした。気持ちだ

けは学生時代、当日の写真と御報告まで。

田辺美紗子（英9）

英文II部クラス会

前回は横浜中華街であったが今年は桜木町のグランドインターコンチネンタルホテルの最上階の見晴らしの良い部屋を中村（武）幹事が斡旋してくださって、すばらしい眺めの別室でクラス会を開いた。



今回は上市さんの協力で門根先生にご出席して戴いた。我々にとっては、「体育の集中実技」でいろいろお世話になった体育の先生である。中村（武）幹事が学生時代勤務先のジャーデン商会からたどり、とうとう佐藤靖男さんの住所を発見し、初めて参加していただいた。石垣高太郎、山口正哉さんも初参加。かならず参加して下さいる服部さんはご主人と一緒に会外に公務でお出かけた。空路関西から参加の井上君を含め、合計十四名であった。竹内さんは九七年はアトランタ郊外の大学を卒業後、四十年でリユニオン（再会）で母校までお出かけになるとうらやましい話を聞かせていただいた。 小林 守信（英II1）

食物科学コース三回生の 同窓会に寄せて



私達が、短大の食物科学コースを卒業してから、早くも十四年の歳月を過ごしてきました。

私達は、横浜近郊の実家の仕事や結婚などの都合により実家を離れ、それに伴い先生方や友達との交友の機会も少なくなりました。そこで、昔懐かしい先生や級友と一堂に会し、あの頃の思い出やお互いの会社や家庭での生活体験を語り合い楽しいひと時を過ごし、再び交友を深めていきたいと思ひ、一月二十五日(土)フランス料理で有名な「ホテルドゥミクニ」が横浜に新店しました「コートダジュールミクニズ」に於てワインで乾杯後、ランチ形式の同窓会を開きました。

私達も三十五歳という年齢に達し、家庭では育児に、仕事では責任ある立場と忙しく日々を送り、八十八名の卒業生の内二十三名とし小さい集まりとなりましたが、和田先生をお迎えし、学生時代の面影を十分残している話題から会話も弾み、学生時代の思い出や家族の話など開催時間の二時間もアツという間に過ぎていきました。

また、この機会に『住所録及び私の近況集』を作成し、お互いに短大を卒業後それぞれに頑張っている姿を見ることができました。五年以内に第二回同窓会を開催する計画を立てています。

百合本真弓

五月会



慣例の英文科第二回卒業生の五月会を五月二十一日(水)、ランドマークタワービル内の六十八階にあります中華料理店「皇苑」で開催いたしました。

今年も、毎年出席されます島根県、奈良県の方はもとより九州からも日帰りでご参加され

大変賑やいだ楽しい会でした。

六十八階から目に入ります桜木町界わいは昭和二十年後半のまだ戦争の傷あとの残っておりました当時の面影はどこを捜しても見当らず「まるで他の国に来たような」と年月の流れをしみじみ感じました。でもお喋りをしてる間に私共の心は、その四十数年間を飛び越えて昔の気持にもどれ、これが学生時代の仲間のよさと思いつつ食事とテイタイムのひと時を過しました。

英文学、英文法、英文学史と奥深い講義をして下さいました相川先生、柳生先生、小滝先生方は御他界なされ段々に寂しくなりました。木造の教室で受けた授業を懐しみつつ皆で御冥福をお祈り申し上げます。そして私共も少しでも元気で頑張つて、又来年お会いしましょうと約束して会を閉じました。幹事 白井好志子・玉野 利子(短英二)

編集後記

昨年の創立五十周年・国文科三十周年と、忙しい年を過ぎ、また落ち着いた学内となりました。香葉会でも規約を改正し新たな前進をと考えています。編集委員会でもますます努力していきたいと思っております。皆様の御意見等をお待ちしております。

平成 8 年 度 決 算				平成 9 年度予算
収 入 の 部	予 算	決 算	増 減	予 算
会 費	(@18,000×902) 16,236,000	16,236,000	0	(@18,000×940) 16,920,000
賛 助 金	500,000	804,000	304,000	500,000
預 金 利 息	5,000	4,097	△ 903	5,000
雑 収 入	5,000	186,250	181,250	5,000
前 年 度 繰 越 金	3,805,344	3,805,344	0	3,420,008
合 計	20,551,344	21,035,691	484,347	20,850,008

支 出 の 部	予 算	決 算	増 減	予 算
通 信 費	4,000,000	3,565,967	434,033	3,000,000
印 刷 ・ 製 本 費	2,000,000	1,982,230	17,770	2,000,000
総 会 ・ 会 合 費	2,200,000	2,171,069	28,931	2,200,000
交 通 費	500,000	295,340	204,660	500,000
用 品 費	100,000	73,515	26,485	100,000
委 託 費	700,000	436,214	263,786	600,000
謝 礼 費	100,000	10,000	90,000	50,000
消 耗 品 費	100,000	42,636	57,364	100,000
人 件 費	3,000,000	2,633,800	366,200	3,500,000
合同同窓会分担金	(@300×902) 270,600	270,600	0	(@300×940) 282,000
新 入 会 員 飲 迎 費	1,500,000	1,341,060	158,940	1,500,000
慶 弔 費	1,000,000	585,196	414,804	500,000
寄 付 金	200,000	200,000	0	200,000
雑 費	80,744	8,056	72,688	18,008
予 備 費	800,000	0	800,000	300,000
特 別 会 計	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000
名 簿 発 行 準 備 金	0	0	0	2,000,000
奨 学 金 基 金	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000
(小 計)	20,551,344	17,615,683	2,935,661	
次 年 度 繰 越 金	0	3,420,008	△ 3,420,008	
合 計	20,551,344	21,035,691	△ 484,347	20,850,008

賛助金をご寄付くださった方へのお礼とお願ひ

今年も後記の方々から総額「八十万四千円」をお送り頂き、厚く御礼申し上げます。諸物価の値上げにより、年々「香葉」の発行がむずかしくなっておりますが、卒業生唯一の会誌を存続したいと、編集委員一同がんばっておりますので、今後共賛助金のご協力をよろしくお願ひ致します。

一九九六年度賛助金寄付者（敬称略）

- | | | | | | | | | | | | |
|------|------|-------|------|------|------|-------|------|--------|--------|----------|------|
| 岡部良子 | 和田康子 | 増田安喜子 | 西出昌子 | 石川弘子 | 前田博子 | 小林サエ子 | 西山澄子 | 尾台貴子 | 小田牧子 | 竹内恵美子 | 井上春水 |
| 足立求子 | 石崎キク | 石見さつき | 門根静子 | 碓氷 睦 | 鈴木久恵 | 勝村ふみ子 | 徳江奈美 | 中村八朗 | 中村武雄 | 井上多恵子 | 鈴木利治 |
| 松友明見 | 平井紀枝 | 江波戸房子 | 安部純子 | 徳江美和 | 斉藤節子 | 塚田由美子 | 大谷道代 | 石田道博 | 門井正治 | 鈴木恵美子 | 佐藤晴男 |
| 成瀬節子 | 志賀ミチ | 松本智恵子 | 岡崎敬子 | 福崎浩子 | 川上妙子 | 石井多恵子 | 大川幸子 | 山口正哉 | 土山 忠 | 錦織マサ子 | 飯田染子 |
| 葛城容子 | 小林守信 | 外山富美子 | 影山直子 | 渥上龍美 | 原由美子 | 沼田恵美子 | 田代節子 | 石田禎子 | 石井英子 | 青木千恵子 | 水越みつ |
| 吉田弘子 | 佐生貴子 | 小林三恵子 | 本田憲代 | 瀧美裕子 | 丸山勝代 | 小出美智代 | 浅葉勝美 | 山本桂子 | 平尾富子 | 白土紀久子 | 重田和子 |
| 飯吉玲子 | 阿部則子 | 五十嵐節子 | 高橋洋子 | 徐多恵子 | 田辺洋子 | 岡田温子 | 片方教子 | 辰沼滋子 | 猪俣道子 | 田辺美紀子 | 村岡愛子 |
| 高山政子 | 石井早苗 | 飯塚まり子 | 阿部典子 | 井田玲子 | 岡田温子 | 江成千恵子 | 高畑早苗 | 保科恭子 | 小瀬朝子 | 日下利枝子 | 佐藤美代 |
| 谷沢みね | 熊谷君代 | 山内奈緒子 | 中里玲子 | 松田良子 | 菊地和子 | 佐藤みち子 | 須藤和子 | 安彦潤子 | 雨宮慶子 | 馬屋原麻里 | 三宮正枝 |
| 木村燐子 | 田代裕子 | 高橋寿美子 | 杉山愛子 | 菅野富子 | 大塚和子 | 青木美代子 | 小俣恵子 | 山崎恵子 | 村井英子 | 千川奈緒美 | 関根幸子 |
| 森 静恵 | 稲垣愛子 | 工藤ひろみ | 狩野友恵 | 菅野富子 | 早川寿子 | 三宅美紀子 | 小俣恵子 | 中西愛子 | 都竹道美 | 青木美恵子 | 佐藤薔薇 |
| 吉田洋子 | 高城寛子 | 武田由紀子 | 小島美映 | 山本吉枝 | 早川寿子 | 三野宮恭子 | 関 令子 | 西愛子 | 伊藤陽子 | 矢野ミミ子 | 加藤早苗 |
| 安藤洋子 | 菅藤早苗 | 日原美登里 | 萩原幸枝 | 古郡綾子 | 和田照子 | 田丸瑠美子 | 剣持敏江 | 沢野洋子 | 佐藤恵子 | 上市由紀子 | 松永政江 |
| 池田理恵 | 金子貞子 | 芦部久女夫 | 高橋静子 | 山口周子 | 富田欣一 | 長谷川伸一 | 千田節男 | 古城房子 | 石渡朝子 | 阿部浪美子 | 松田初枝 |
| 桐山ヒロ | 上倉幸代 | 高橋美佐子 | 長崎 薫 | 桜田幸子 | 小堀真澄 | 川村陽太郎 | 斉藤道子 | 外山京子 | 飯尾恒子 | 祖父江有加 | 小林美喜 |
| 加藤裕子 | 平井道子 | 佐々木清唯 | 森 禎子 | 鈴木迪子 | 金子ちよ | 青木昭次郎 | 朝木圭子 | 近藤睦子 | 長崎洋子 | 鈴木みどり | 田中直子 |
| | | | | | | | | 鶴見智子 | 関口眞喜子 | 内田康子 | |
| | | | | | | | | 山崎恵子 | 柳生二三 | 小林寿恵子 | 吉屋保子 |
| | | | | | | | | 沢野洋子 | 佐藤恵子 | 上市由紀子 | 松永政江 |
| | | | | | | | | 古城房子 | 石渡朝子 | 阿部浪美子 | 松田初枝 |
| | | | | | | | | 外山京子 | 飯尾恒子 | 祖父江有加 | 小林美喜 |
| | | | | | | | | 近藤睦子 | 長崎洋子 | 鈴木みどり | 田中直子 |
| | | | | | | | | 西村恵子 | 山下美紀 | 大竹真理子 | 福岡友子 |
| | | | | | | | | 中尾順子 | 阿部道子 | 西村麻由子 | 田中久恵 |
| | | | | | | | | 土屋明子 | 越智協子 | 森田吉世江 | 飯島敏子 |
| | | | | | | | | 川島久里 | 佐藤久子 | 福岡世紀子 | 伊藤 進 |
| | | | | | | | | 田辺和子 | 成川勝子 | 濱田二三栄 | 相吉典子 |
| | | | | | | | | 塩田陽子 | 岩野由美子 | 長谷川不二恵 | |
| | | | | | | | | 椿原千佳子 | 後藤美和子 | アンダーソン貞子 | |
| | | | | | | | | 増田安喜子 | スミス八千代 | スベリー美津江 | |
| | | | | | | | | ワグナー美与 | 板谷越ふさ江 | 山本ひろみ | |
| | | | | | | | | 吉田千恵子 | 馬屋原有利子 | クリスチャン道子 | |

(一九九七・三・三十一日迄)



先輩諸姉へ求人のお願い

本学卒業予定者の就職活動につきましては平素より暖かなご援助、ご協力をいただき感謝申し上げます。

学生達は将来への希望を胸に企業の扉をたたいておりますが、昨今の社会情勢の中、女子学生への門戸は大変厳しいものになっております。

つきましては、先輩方のご関係で求人のお話がございましたら就職課へぜひお知らせくださいますようお願い申し上げます。

〒236 横浜市金沢区六浦町4834 Tel (045) 787-7868

関東学院女子短期大学就職課 Fax (045) 781-1491

香葉 第 26 号

平成9年10月1日 印刷・発行
関東学院女子短期大学・香葉会
代表者 古城 房子
横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236
関東学院女子短期大学内
Tel・Fax (045) 787-7859

関東学院同窓会・香葉会誌